

手
信
南

秘

電信寫

(11.1.0.2-8)

昭和3 七八七九 暗

青島 本省

六月十三日後着

亞

藤田總領事

第四三九號ノ一

南京發閣下宛電報第二〇六號ニ關シ

目下濟南、青島ハ勿論鐵道沿線二十支里内カ南北何レノ色彩ニモ
屬セサル一種ノ中立地帯ヲ形成シ居ル次第ハ御承知ノ通ナルカ山
東政府ハ豫テ卑見上申ノ通正シク馮玉祥系ノ支配下ニ歸セントシ
彼一派ノ從來ニ於ケル排外思想ニ想到セハ我方ノ苦手トシテ少ク
トモ困難ノ地步ヲ生スヘキハ想像ニ難カラス濟南事件發生後既ニ
月餘ヲ閱シナカラ南京政府力末節ニ拘泥シ徒ニ根本問題ノ解決ヲ

遷延スルハ假令内部的事情ノ纏綿セリトハ云ヘ畢竟我ニ對スル交
渉ヲ有利ニ導カントスル支那一流ノ牽制的底意ニ外ナラスト察セ
ラレ其ノ無誠意ト陋劣サニ呆レサルヲ得ス濟南事件ノ解決方ニ付
テハ累次卑見開陳シ置キタルカ是ヲ要スルニ此ノ儘有耶無耶ニ時
日ヲ空費セハ益々支那側ニ乘セラレ有終ノ成果ヲ收ムルコト難キ
ニ立至ルヘシ依テ彼我ノ交渉ヲ促進シ而モ我方ノ有利ニ是ヲ誘導
スルニハ交渉相手方ノ人物ヲ本位トセス飽ク迄モ確立セル根本策
ヲ提ケテ善處スヘク先ツ支那側ノ急所ヲ捕ヘテ苦痛ヲ與ヘ彼ヲシ
テ自ラ兜ヲ脱カシムル持久の方策ヲ採ル外ナシト存ス

(續ク)

記録係者 濟南事件 解決交渉ノ要旨



電信寫

昭和3 七八九二 暗

青島 本省

六月十三日後着

五

田中外務大臣

藤田總領事

第四三九號ノ二

其ノ方法トシテハ差當リ

(一)支那側カ在舊時日ヲ徒費セシムルヲ能事トシ濟南事件ノ解決ニ全ク誠意ヲ缺ケルヲ指摘シテ輿論ヲ高唱セシメ支那側責任當局ノ立場ヲ苦シムル一方

(二)膠濟鐵道ヲ初メ濟南、青島ノ政權ニ關與セシメサル様仕向クルニアリ

右ハ一見支那内政ニ干涉スルカ如キ嫌アルモ濟南事件ノ解決促進

ノ牽制的手段トシテハ之ヲ巧妙ニ利用スルニ非サレハ到底我方所期ノ目的ヲ貫徹スルコト不可能ナルヘシ加之若シ南方側ニ鐵道ノ經營及政權ノ授受ヲ許容セハ我軍隊ハ彼等ノ身邊ヲ保護スル體好キ番犬トナリ彼等ヲ増長セシムルハ未ダシモ濟南事件ノ如キ恐ラクハ永久ニ解決スルコト覺束ナキニ至ラム南京政府目下ノ急ナル欲求ハ屈指ノ貿易港タル青島ノ政權ヲ掌握シ鐵道ヲ管理シテ財政ニ資セムトスルニアル事歴然タルニ鑑ミ趙世喧、崔士傑一派ノ青島入りヲ許ス事トモナレハ假令形式的ノ誓約ヲ取付クルトモ何等萬全ノ重サヲ爲ササルノミナラス便衣隊其ノ他政客ノ潛入ヲ容易ナラシメ延テハ排日行爲ヲ挑發シテ治安紊亂ノ因ヲ作り我軍隊トノ間ニ再ヒ事ヲ構フルコト無キヲ保セス卑見ヲ以テスレハ少クトモ濟南事件解決ヲ見ル迄ハ南北何レノ系統ニモ濟南、青島ヲ委ネ

シメサルヲ有利ナリト思考スルニ付篤ト御考慮ヲ仰度シ御參考迄

北京、天津、濟南、上海、南京ニ轉電セリ

S

11104

252

S

11104

251

185

亞細亞局長

秘

電報

第一課甲

昭和三年六月十三日

昭和參年六月拾參日接受

六月十二日午後 四二〇發
五六著

參謀次長宛

上海 重藤 中佐

上海電第五三六號

民政黨代議士森下國雄、當地日本新聞ニ發表セシ所ニ
依レハ梅谷某ヨリ蔣介石ニ贈與セル名カ一振ヲ交付セリト
濟南事件ノ最高責任者タル蔣ニ對スル斯ノ如キ日本人
ノ態度ハ驚クノ外ナシ吾人ハ國内ノ不統一斯ノ如クナル以上
對支問題ハ絕對ニ成功ノ見込ナシト断セサルヲ得ス御參
考迄

c 93.1112

濟南事件 186

S 11104 253

逓信省 逓細部局長

中

昭和三年六月拾參日接受

555

極秘

電報

參謀次長宛

重藤中佐

昭和三年六月十三日
六月十二日午後五、二一發
五、一一着

上海電第五三五号(其一、二)

南京佐々木中佐電第一五号

一、王正廷カ馬伯援ニ語リシト云フヲ聞クニ王ハ「黃郛ハ田中首相カ天津ヨリ三中隊ヲ孤遣スルノミテ日本ノ面子ヲ立テルトノ言ヲ輕信シ今回ノ失敗ヲ招ケルカ自今ハ英米ノ勢力ヲ以テ日本ノ牽制スル心算ニテ濟南事件ノ解決ハ華府會議山東問題ト同ニ要領ニ依ル心算ナリト云ヘリト

二、南京要人ノ多數ハ民政党内閣トナレハ問題ハ直ニ解決スルト信シアルモノ多シ目下現政府反對黨員或ハ浪人ノ南京ヲ

12.005

訪問スルモノ多ク夫等ノ全部カ右ノ如キ未謹慎ノ言ヲ爲スノトハ信セサルニ支那側ノ此ノ妄信ハ相當根據アルヲ遺憾トス

三、支那方面ノ宣傳印刷物及相當智識階級スラ衝突ノ原因タル掠奪ノ事件ハ日本側ノ宣傳ナリト信シアルモノ多シ

S 11104 254

S 11104 255

陸軍部局長

第一課乙

昭和三年六月十三日

陸同文

電報

參謀次長宛

第三師團參謀長

昭和三年六月十三日

六月十二日 午前二時三十分

午後四時五十分

次官

三參第一三六號(其一、二)

十一日藤田總領事ハ日本新聞記者ニ對シ發表ヲ禁シ
ツ、左ノ要旨ノ談話ヲナセリ

南京政府ハ交渉ヲ有耶無耶ニ尋ランカ為只管田中内閣
ノ交迭ヲ待テ内地ニアル一部日本人モ亦撤兵ヲ希望シ
アルモ日本軍ノ出兵ハ一ニ統帥權ノ發動ニ依ルモノニ
シテ内閣ノ交迭ヤ一ニ輿論ニテ左右セラル、筋合ノ
モノニアラス又濟南事件ノ解決ニハ武力ノ後援ヲ要シ
又倭令事件ノ交渉終ルトモ在留邦人ノ不安一掃セラレ
サル限リハ現地保護ヲ目的トセル以上軍ヲ撤退スヘキ

611.2312

ニアラス予ハ徹頭徹尾駐兵ノ必要ヲ認メアリ若シ後ハ
野トナレ山トナレ式ニ撤兵セラル、様ノコトアラハ在
留民一同ハ已ニ得テ旗ヲ捲イテ歸國スルノ外ナカラシ
宜シク互ニ堅キ信念ヲ以テ山東ヲ安堵永住ノ地ト考ヘ
事ニ處スルヲ要ストテ一面記者等ノ輕卒ナル議論ヲ戒
メ他面彼等ヲ介レテ居留民ニ安心ヲ與ヘメトスル如ク
聲淚共ニ下ル熱烈ナル其駐兵論ハ記者一同ニ多大ノ感
動ヲ與ヘ稀ニ見ル緊張ノ場面ヲ現出セリ

朝日新聞 昭和 年 6 月 17 日

**濟南事件の
軍事的交渉打ち切り
外交交渉方針につき**
外相昨日矢田総領事に訓電

濟南事件の軍事的交渉は、昨午、外相矢田の訓電により、打ち切りとなつた。矢田は、この訓電で、軍事的交渉の打ち切りを通告し、外交交渉の方針につき訓示した。訓電の要旨は、一、濟南事件に關し、南京政府は、帝
國政府に對し、國際の意見を尊重する
こと、
二、濟南における我が国民の支
援兵隊に對する危害および受けた
る生命に對する危害および財産
に對する損害につき、賠償の
要求を呈すこと、
三、賠償金の回収を速行せしめ、
め、あるべき十分な保障を確保
すること、
四、軍事交渉の打ち切りは、南京政
府に正當な理由を提出するに對する
方針決定し、二十日中外相は、矢田
外相に對し、この旨を訓電した。

朝日新聞 昭和 年 6 月 17 日

**濟南事件の
軍事的交渉
蔣介石の辭職で
外交的解決の他なし**

帝國政府は、濟南事件の解決の爲め、
一として、蔣介石の辭職を要求する。蔣
の辭職を要求するが、蔣は、個人
としての辭職を要求する際にも、行
かすこの件は、蔣が、無罪に親ら
れは、すまいかと懸念されてゐるま
た、日本海軍第二艦隊長官、根中
根中將は、昨午、東京で、蔣の辭職
に關する軍事交渉の内情を語つて
ゐるが、蔣の辭職の爲め、外交交渉
は、更に、かゝるから、蔣の辭職は、十
四日東京に關する密であるから、
蔣の辭職も、蔣の辭職すべし、南京
政府及び蔣の立派なより、推
測すれば、帝國政府の進取であるた
通り、蔣の辭職は、先づ軍事交渉に上
り、一應の解決は、はかり、蔣の辭職
は、蔣の辭職を、はかり、蔣の辭職を、
蔣の辭職の外交交渉に移る方針を、
變更して、軍事的解決も、蔣の辭職
に任せ、一掃解決するの外なきに、
なるといふことである。

濟南事件



三ノ月

電信寫

昭和3 七九七七 暗

青島 本省

六月十五日前着

亞

藤田總領事

第四四三號

南京發閣下宛電報第二〇八號及濟南發閣下宛電報第三七八號及第三八一號等ノ事實ニ徴シ南軍側ニ濟南事件ノ急速解決ヲ計ルヘキ誠意無キハ察知スルニ難カラス從テ之ニ對應スヘキ我方策トシテハ持久策ヲ考慮シ警備地域内ニ新ニ浸潤シ來ラムトスル南方勢力ヲ極力阻止シ濟南事件ヲ急速解決セサレハ南京政府ニモ極メテ不利ナルコトヲ痛感セシムル一面我政府ニ於テモ現在ノ如キ二個師團ノ一時的配置ヲ變更シテ兵員ヲ減少シ持久的守備ニ適セル編成

ト爲スコト極メテ緊要ナルヤニ思考セラル當方面目下ノ情勢ニ顧ミルニ濟南及沿線一帶ニ於ケル土匪乃至南軍便衣隊ノ出沒等小事故ノ發生ハ當分免カレ得スト雖既ニ我警備地域ヨリ南北兩軍ヲ完全ニ一掃シ動亂ノ中心モ山東ヲ遠サカリタルカ故ニ此ノ際人員ヲ平時編成ノ一個師團ニ減少シ之ニ最新式ノ精銳ナル武器ヲ充分ニ備ヘシムルコトニ依リテ守備ノ目的ヲ達シ得ヘシト認メラル本件ハ軍事ニ係リ且政府ニ於テモ既ニ充分御考慮ノコトト存セラレ差出カマシキ次第ナルモ南方側ノ誠意無キ態度ニ對應スヘキ我持久策ノ考慮ニ當リ此ノ際軍隊ノ編成替ハ寧ロ必要ナルヤニ認メラルニ付卑見何等御參考迄ニ申進ス

北京、濟南、上海、南京へ轉電セリ

S 11104 261

S 11104 260

重なる

秘

山東交渉ニ関スル藤田總領事案

(漢口事件)

濟南事件ハ國民革命軍力長江ニ進出シ南京事件ヲ惹起シタルト同様ナル情勢ノ下ニ演セラレタルモノニシテ其主因ハ政情ノ不安定ニ依ル各派勢力ノ暗闘繼續ニ其ノ首領ハ軍隊内ノ不良分子ヲ辨別淘汰スル能力ト實力トヲ有セス加フルニ民心惑亂ノ方便トシテ排外的宣傳ヲ高唱シ條約上ノ權利ヲ蹂躪シソソアル情勢ニ基キ遂ニ五月三日ノ暴舉ニ其端ヲ發シタルモノナリセカ為知人ノ傷殺セラレタル者十三名凌辱セラレタルト確實ナル者一名負傷者十六名掠奪破壊セラレタル家屋一三九

軒ノ多數ニ達シテリ准テ今後支那ニ於テ政情ノ安定軍隊ノ整理排外的宣傳ノ中止並ニ條約上ノ權利尊重ヲ見サル限リ支那官憲ニ誠意アリトスルモ其聲明ハ毫モ信賴スルニ足ラサルハ勿論今後共此ノ種排外的紛亂ノ再發ハ到底免カレサルヘシ依テ帝國政府ハ支那現下ノ實狀ニ照シ濟南事件ノ再發ヲ防壓スル為必要不可缺ト判定シ左記條件ヲ要求ス

S 11104 262

S 11104 263

第一、直接被害ニ對シテ要求

陳謝ス

(一) 南京政府ハ邦人被リテ虐殺暴行、掠奪ニ對シテ帝國政府ニ遺憾ノ意ヲ表示スルコト

虐殺

(二) 邦人ヲ虐殺シテハ暴行ヲ加ヘ若ハ掠奪ヲ行ヒテ軍隊ノ幹部及加害者ヲ嚴罰シ其ノ旨ヲ南京政府ノ名ニ於テ濟南市内ニ告示スルコト(單獨ニ軍事解決成立シタル時ハ本項ハ削除ス) (魯地ヲ占ムルニ條件トス)

(三) 掠奪セラルルモノノ凌辱ヲ受ケ又ハ負傷セシモノニ對シテ撫恤(四) 掠奪破壊ニ對シテ損害賠償

第二、在留民ノ生命財產保護ニ對シテ保障

(一) 山東方面現下ノ實狀ニ顧ミ民心ノ安定ヲ是レニ至ル迄(濟南青島及膠濟鐵路沿線ノ重要地ト見做ル) 限度ノ日本軍隊ヲ駐セシムルコト

(一) 日本軍隊ノ駐屯期間ハ事端豫防ノ爲メ濟南青島及沿線兩側ニ十里ノ範圍内ニ支那軍隊ヲ駐セシムルコト

期間

(二) 日本軍隊撤退後ト雖支那軍隊ハ濟南及青島並ニ各商埠下地内ニ駐セシムルコト(濟南商埠地内ニ濟南事件ニ關シテ當然駐兵ノ不可ヲ主張シ得ルヲ青島ハ(附當時支那側ニ於テ自ラ駐兵ヲ希望セズ警察保安隊ヲシテ治安ヲ維持シメ居リタル事) 安具ニ徴シ駐兵ノ不可トヲ主張シ得ルコト

(三) 南京政府ハ在留民ノ生命財產ニ對シテ完全ニ保護ス責ヲ任スルコト(論) 非常課稅如キ再ニ徵收スルノ聲明ヲ發シ

(四) 民(衆) ヲシテ直接行動ヲ誘導スルカ外ニ排外的宣傳ハ一律ヲ禁止スルコト

S

11104

265

S

11104

264

193

第三膠濟鐵路ノ交通確保ニ對スル保障

第三膠濟鐵路ノ交通確保ニ對スル保障

(一) 従来支那軍憲ノ壓迫ヲ受ケ鐵路交通ノ安全ト自由トヲ妨ケラシタル事實ニ鑑ミ膠濟鐵路ヲ日支合辦ノ組織ニ改メ速ニ鐵路及鐵路ト不可分ノ關係ヲ有スル青島埠頭ノ改善ニ圖ル事

善ニ圖ル事

(二) 日支合辦ノ改組實現ニ至ル迄ハ膠濟鐵路ニ對シ日本擔保權ノ擁護ヲ多敷日本人ノ往復及食糧ノ供給ノ安全ヲ圖ル其沿線兩側ニ支電ヲ限リ交戰地帯ト爲ササル事

(三) 軍務處長及會計主任ノ権限ヲ明確ニシテ擴張スル事
右西田欽事共協議濟尤モ右ハ濟南事件ノ起因ヲ深ク考察シ山東方面現下ノ實情ニ照シ最モ重キヲ將來ノ保障ニ置き且奴ガテ條約論ニ觸ルルヲ避ケ實カヲ主眼トスル根本的解決案トシテ起草シタルモノナルヲ今後四圍ノ事情ト

形勢ノ推移トニ依リ多少ノ予加減ヲ加フルノ要アルハ申ス迄モ無ク從テ高考慮ノ餘地アルハ勿論ナリモ原則トシテ之ヲ我方要亦ノ骨子トスル事ハ妨無クハト認ム尙場合ニ依リテハ此際

山東還附條約中支那不履行ノモノハ例ヘハ

- (一) 青島在住ノ外國人ニ市政參與權ノ附與
- (二) 膠濟鐵路沿線都市ノ開放
- (三) 同沿線主要驛電信取扱所ノ開放
- (四) 青島埠頭擴張工事遂行

等ヲ同案ニ附帶セル諒解事項トシテ提議スル事々々字カト察セラルルニ爲念申添フ
在支那公使、青島へ轉電セリ

電信寫

昭和3 八一三 平

南京 本省

十六日後發
六月十七日前着

亞

田中外務大臣

岡本領事

第二三八號

十五日王正廷ノ支那新聞記者ニ語レル處トシテ大要左ノ如ク傳ヘラレタリ

一 濟南事件交渉代表張群ハ正式代表ニアラスシテ張群。松井ノ會見ハ私的交渉タルニ過キス今後ハ外交部ニ於テ外交手段ニ依リ辦理スヘシ

一 交渉員ノ存在ハ支那獨得ニシテ同時ニ支那ノ恥辱ナリ又在支那外國領事カ外交上ノ事件ニ關係スルハ領事本來ノ職務ニ反スルモノナリ

一 不平等條約ハ其ノ滿期ニ達セルモノ及達セサルモノ共ニ豫定方針ニ從ヒ辦理スヘシ

一 濟南事件ノ解決ニ更ニ國際聯盟ノ力ヲ借リルヤ或ハ他方面ニ努力スルヤ明言シ難キモ外交事件ハ一途ニノモ限定スルノ要ナク行クヘキ途ハ同時ニ進行スルヲ妨ケス云々

公使ニ御轉電ヲ請フ(轉電濟)

往電第二三五號ノ通轉電ス

S 11104 269

S 11104 268

極秘

陸同文

昭和三年六月十六日

電報

六月十五日午後二時〇〇分
十六日午前二時〇〇分

參謀次長宛

第三師團參謀長

三參第一六五号(其一六)

昨十四日藤田總領事カ商埠總辦趙棋ト協定シタル事項
ナリトテ師團長ニ語ル處及之ニ關係セシ事項左ノ如シ

一、華府會議ニ於テ取決ソタル青島市政ニ外人ヲ參典セシムルコトヲ
先ツ趙棋ノ時代ニ實現セシメ置キ國民政府ヲシテ之ヲ承諾セシ
メントス

二、之カ爲メ總領事ヨリ趙棋ニ案ヲ示シ趙棋ヨリ商務總會ニ
之ヲ諮リ兩者ノ名ヲ以テ外國側ニ會同ヲ求メ協定ス
目下支那商民、外國人側(既各領事對シ藤田總領事

ヨリ諒解ヲ求ムリ)共ニ歡迎シアリ、唯南方系學生、支那
新聞記者等ノ反對アルニ、外字新聞ハ昨十四日ニツ共外人
參政權獲得ノ急務ヲ論セリ

三、藤田總領事ノ主張ニ基キ趙棋ノ概シテ承認スル組織ノ大要

地租二十五弗以上ヲ納ル外支人ノ公民権アルモノトシ參政委員
十四名(支那人七名、外人七名)ヲ選舉セシメ趙棋ヲ其委員長ト
ス(計十五名)此ノ委員會ヲ議決機關、現在ノ商埠局
ヲ執行機關トシ商埠局カ現ニ取扱ヒツアル行政、財政、警察
衛生、教育及港灣事務ノ一部ヲ實行セシム
港灣事務中實際海陸連絡ニ必要ナル部分ハ鐵道局ニ移シ
其一課トス
議決機關ニ於テハ毎年豫算ヲ立テ執行機關ニ之ヲ實施セ
シムルモ其收支ヲ監督ス

S

11104

271

S

11104

270



196

四、港務業務ノ一部タル海陸連絡事務ヲ鉄道側ニ附スルハ山東
鉄道ノ會計同標、海陸連絡ノ業務ヨリ入り未レ收入ヲモ曰
本人ノ手ニ管理セシムル爲ノモアリ又山東鉄道ニ對シ日本勢力
將來ノ増加ヲ見越シタルモノナリ
五、目下商埠局ノ收入ハ関稅剩餘金六十萬弗、埠頭稅百三十
萬弗其他水道雜稅等ニテ合計三百萬弗ニテ、海陸連絡ヲ鉄
道ニ移スモ尙將來共之ニ近キ收入アリ、軍閥ニ割取セラレサル時ハ
青島發展ノ爲メニ百萬弗以上ヲ使用シ得ル見込ナリ、
此案亦成立セバ青島ノ將來大ニ見ルキモアリ、日本人ノ利益モ大
ナラン、之ヲ第三師團駐在中ニ決行セントスル總領事ノ腹ナリ、
六、趙棋ハ山東人ニテ舊 独逸時代ノ青島軍司令部通譯出身
事務官肌ヲ男ニシテ英、独人ニ好ク又日本人ニ好シ又總商會ノ
氣度モ悪シカラサレトモ米國人中ニ北方軍閥ノ遺物トシテ之ヲ

好マサルモノアリ、米國領事ハ我特務機關ニ對シ彼ヲ守リ立ウル
コトニ就キ不平ヲ述(タルモ特務機關ニテハ徐々ニ説明ヲ加(納得セ
シメントシム、アリ、

七、趙棋ハ其政治的生命ノ長カラサルヲ自覺シアルモ自己ノ時代ニ
此ノ組織ヲ完成シ出身地タル山東ノ爲メニ圖ルト共ニ永ク青島
人民トシテ其慶福ヲ享ケ度旨ヲ語レリ、

藤田總領事ハ華府會議取極メハ王正廷ノ調印シタルモノナルカ
故ニ此案ニ對シテハ他日國民政府ノ承認ヲ度ケサル可カラサル場
合トモ彼カ外交委員長タル以上異議ナカル(シト称シアリ、
(十五日午後六時) 第六師團 マニ、

S

11104

273

S

11104

272

197

山東

極秘

至急陸同文

昭和三年六月十七日

電報

六月十六日午後四時一〇分發

總長宛

在第六師團長

濟謀第八六号(其一—其五)

第六師團當面ノ情况ニ鑑ミ左ノ如ク意見具申ス

意見

日本政府ハ蔣介石ノ下野ヲ機トシ濟南事件ヲ外交交渉ニ移スト共ニ其解決ヲ有利ナラシメ且不安ナル居留民ノ生命財產ヲ保護スルヲメ當令必要ナル軍隊ヲ濟南青島及七膠濟沿線ニ駐割セシムル如ク準備スルヲ要ス

理由

一、事件當面ノ責任者タル蔣介石ノ下野ハ其名義ノ如何ニ拘ハラヌ彼ノ最モ苦痛トセル濟南事件ニ於ケル責任ヲ回避シ事件ヲ有耶無耶ニ葬ラントスル支那一流ノ瞞著手段タルヤ勿論ナリ從テ軍力彼ノ責任ヲ問ヒ謝罪ヲ要求セシコトモ既ニ其對象ヲ失ヘルヲ以テ今後ハ自然之レヲ國民政府ニ要求スルコトトナルヘク果シテ然ラハ此ノ機會ニ於テ本交渉ハ全部外交問題ニ移シ以テ日本及軍部ノ威信ヲ貫徹スルト共ニ其解決途ハ濟南青島及七膠濟鐵道沿線ニ軍隊ヲ配置シ交渉ヲ有利ニ進展セシムルコト必要ナリ

蓋シ國民政府特ニ王正廷ノ如キ狡猾ナル相手ハ彼力減セル言ノ如ク事件ノ解決ヲ極力遷延シ日本國民性ノ熱ニ易ク冷メ易キ欠点ヲ利用セントスルハ當然ニシテ事件ノ解決ハ爾後相當長引クモノト覺悟セサルヘカラス然ルニ國民政府ノ山東ニ於ケル目標ハ政治

S 11104 275

S 11104 274

255

198

ノ中心タル濟南及ヒ收入豊富ナル鐵道沿線ト青島ヲ
掌握スルコトアルハ論ナク日本軍カ此處ニ占據シ依
然トシテ支那軍ノ二十支軍ハ進入ヲ阻止シ政權ノ擴
張課稅等ニマテ苦痛ヲ感セシメアル間ハ彼ノ最モ苦
ム處ニシテ王ノ所謂漫々的ニ對スル唯一ノ妙藥ナル
ハシ

六、駐兵ノ時期ハ斯クノ如クニテ相當長時ニ亘ルコトヲ
覺悟セサルハカラス之カ爲メ外部ニ對スル顧慮ヨリ
特又國幣削減ノ上ヨリ見テ目下ノ駐屯兵カハ適當ノ
時期ヨリ逐次之ヲ整理シテ最後ニ於テハ六七名
ニ節シ其歩騎兵ノ數ヲ増加シ之レニ飛行機機甲自動
車其他ノ新兵器ヲ豊富ニ配屬シテ要地ニ令駐セシメ
万一ノ場合ニハ内地若クハ滿洲ヨリ應援スルコトハ

過般ノ事件直後ニ於ケルカ如クスルヲ有利トス

三、本駐兵間青島ニ於ケル特別市政ノ施行膠濟鐵道及青
島埠頭事務ノ改善日本勢力ノ擴張等ニ関シ目下青島
及濟南ノ我外交官憲力著手シ若クハ著手セントレツ
ツアル事項ニ就キテハ軍部トシテ之レヲ後援支援ス
ヘキハ勿論ナリ

四、以上ノ理由ニ依リ取敢ヘス左ノ處置ヲ執ルヲ要ス

一、日本政府ハ蘇ハ石ノ責任回避ヲ機會トシ濟南事件
ハ之レヲ外交問題ニ移スヘキコトヲ聲明シ師團長
ノ要求セル右項ハ之ヲ交渉ノ内ニ加ス

二、日本政府ハ自發的ニ適當ノ時機ニ於テ現在駐屯兵
カヲ整理シ總兵力約七千飛行機輸送自動車無線
電信火炮放射器照明彈等ノ新兵器ヲ附スヲ濟南

極秘

濟南事件ノ解決私案ノ二（昭和三年六月十八日）

- 一 此際至急濟南事件ノ解決方ニツキ國民政府ト交渉ヲ開始スルコト
- 二 交渉ノ場所トシテハ事件ノ發生地タル濟南ヲ選フヘク日本側交渉委員トシテハ藤山總領事及西田領事ヲシテ之レニ當ラシメ國民政府側ヨリハ全權ヲ委任セラレタル代表者ヲ派遣セシムルコト
- 三 要求事項ハ左ノ通りトスルコト

(4) 謝罪

國民政府ヲシテ邦人ノ蒙リタル虐殺暴行掠奪ニ對シ帝國政府ニ向ツテ陳謝ノ意ヲ表セシムルコト

(4) 處罰

邦人ヲ虐殺シ又ハ暴行若ハ掠奪ヲ行ヒタル支那軍隊ノ幹部及加

S 11104 279

外務省

(赤梓紙)

200

又ハ其以東ノ要点ニ配置スヘキ部隊トスレハ步兵及ヒ騎兵ノ兵力ヲ増加スルコトハ要アリ

ハ青島ニ於テ藤田總領事ノ採リツツアル特別市政ノ施行其他ニ就テハ十分之レヲ支援シ此機會ニ於テ山東ニ於ケル政府及邦人ノ利権ヲ確係シ以テ外交交渉ヲ有利ニ進展セシム

ニ駐屯各地ニ於ケル兵舎其他ヲ之ニ應スルカ如ク設備ス

閩東、北京、天津、スミ

S 11104 278

害者ヲ嚴罰ニ處セシムルコト

イ 損害賠償

慘死者十四人ニ對スル弔慰金ノ支拂

負傷者及缺行ヲ受ケタル者ニ對スル慰藉金ノ支拂

掠奪ニ對スル損害賠償ノ支拂

ロ 將來ノ保障

國民政府ヲシテ在留民ノ生命財産ニ對シ完全ニ保護ノ責ニ任ス

ヘキコト及排外排日的運動若ハ宣傳ヲ有效ニ禁止スヘキコトヲ

改メテ約セシムルコト

四 此議會ニ南京事件及漢口事件ヲ解決セシムルコト

五 濟南事件南京事件及漢口事件ノ損害賠償ノ支拂ヲ現金ニテ爲ス能

S

11104

280

201

ハサル場合ニハ山東鐵道ノ收入ヲ以テ之レニ充テシムルコト、シ

右賠償支拂並四千萬圓ノ鐵道公債ノ支拂ヲ確實ナラシムル爲山東

鐵道ニ必要ナル改良ヲ施サシノ日本人ノ運輸會社兩主任ノ體限ヲ

増加シ要部ニ相當數ノ日本人ヲ入レシムルコトヲ約セシムルコト

六 派遣軍ノ撤退ハ右交渉ト干係無ク一ニ同方面ノ日本人保護ノ必要

ノ有無ヲ標準トシテ其期日ヲ定ムルコト

七 國民政府ノ官憲ノ濟南ニ入込ムコトハ濟南事件ノ解決スルマテ之

レヲ許可セサル方針ヲ持続スルコト

S

11104

281

202

秘

昭和3 八一五六 暗 上海 情、亞
本省 六月十八日後着

田中外務大臣 矢田總領事

第四〇七號ノ一

若杉書記官ヨリ

上海及南京ニ於テ得タル本官ノ印象不取敢御參考迄
一 濟南事件ニ對スル南京政府側ノ意向ハ曩ニ日本政府カ濟南ニ於
ケル軍事當局ヲシテ單ニ日本軍側一方ノ調査ニ基キ恰モ戰勝國
カ戰敗國ニ臨ムカ如キ態度ヲ以テ其ノ要求條件ヲ武力ヲ擁シテ
支那側ニ押付ケントスルカ如キ態度ハ彼ノ二十一ヶ條要求ヨリ
モ甚シク偶々支那側ヨリ調査員ヲ現地ニ派遣セントスレハ日本

電信寫

官憲ハ其ノ生命ノ安全ヲ保障セスト威嚇シテ事實上支那側ニ事
實真相調査ノ機會ヲ與ヘス斯ノ如キ不公平ニシテ強壓的ナル態
度ハ不平等ノ壓迫ヨリ脱セン事ヲ目的トスル國民政府ノ立場ヲ
無視スルモノニシテ如何ナル親日家カ其ノ局ニ當ルトモ到底容
認シ難キ次第ナリ若シ日本ニシテ右ノ如キ一方的要求ヲ強制セ
ントナラハ支那ハ現在ニ於テハ兵力ヲ以テハ日本ニ敵對スルノ
力無ク又其ノ意志モ無キヲ以テ當分山東ヲ日本ノ蹂躪ニ委シ今
後日本自體ノ政局ノ推移ト世界ノ公論ト支那國民ノ結束ニ俟ツ
ノ外無シ北伐モ一通リ完成セル此ノ際日本カ山東ニ居据リタリ
トテ支那ハ左シタル痛痒ヲ感セス（若シ日本カ更ニ進ンテ南京
漢口ヲ突カハ巴ムテ得ス政府ハ西安又ハ蘭州ニ遷クノ外無シト

203

S 11104 283

S 11104 282

迄切言セル要人有リ一 嬰スルニ支那ハ現在無力ニ付佛國ノ「ル
ール」占領ニ對スル獨逸當時ノ態度ノ如ク消極的抵抗ヲ以テ日
本ニ富ルノ外無シト云フニアリ然レトモ若シ日本カ軍事解決ヲ
捨テ公平ノ立場ニ於テ政府ト政府トノ間ノ外交交渉ニ依リ事件
ヲ解決セントスルニ於テハ南京政府モ亦大ニ之ヲ望ム處ナリ現
ニ過日發表セル南京政府ノ對外宣言草案中ニハ濟南事件ハ之ヲ
「國際調査又ハ國際」ニ付スル旨ヲ付記セルヲ（續ク）

S

11104

284

S

204

秘

昭和3 八一五五 暗

上海 本省

六月十八日後着

情。亞

田中外務大臣

矢田總領事

第四〇七號ノ二

王正廷外交部長就任ノ翌日十五日公表サレタル對外宣言正文ニハ
 右ノ一句ヲ削除シタルハ同日王正廷カ外交部ニ於テ朝日新聞特派
 員太田ノ質問ニ對シ濟南事件ハ之ヲ國際裁判ニ付スルヲ欲セス日
 支間ノ事ハ何處迄モ日支間ニ於テ直接解決シ度キ考ニテ日本カ若
 シ山東懸案解決當時ノ如ク和衷協同ノ精神ヲ以テ交渉スルニ於テ
 ハ本件ノ解決敢テ難シトセスト答ヘタルニ見ルモ略其ノ意向ヲ窺
 フニ足ルヘシ固ヨリ上記スル處ハ支那人一流ノ掛引上ノ「ブラ
 フ」モ有ルヘシト雖何レニスルモ本件ハ一日モ早ク外交交渉ヲ開
 始スルノ要有ルヘシ

ニ排日事情ノ内容ハ頗ル復雜シ居ルモ濟南事件ノ爲ニ日本ノ執リ
 タル手段カ南京政府當局ヲシテ排日取締ヲ勵行スルニ至ラシメタ
 ル事一因ナルハ疑ヲ容レス現ニ國民政府所在地タル南京ニ於テ其
 ノ取締振最著シキヲ見ル上海ニ於テモ相當嚴重ニ取締リ居ル爲表
 面上ハ排日事件少ナキモ一面ニ於テハ南京政府ノ組織上政府ト黨
 部トノ關係上制令徹底シ兼ヌル市黨部ノ裏面ニ於ケル周密ナル策
 策ニ依ル排日運動依然トシテ旺盛ナルカ如ク若シ之ヲ放任セハ少
 年學生一般民衆ノ間ニ牢乎トシテ抜クヘカラサル排日感情扶植サ
 ルヘク將來兩國政府カ如何ニ親善ニ努力スルモ兩國民間ノ實生活

S 11104 286

S 11104 285

205

上種々不安ノ因トナルヘキヲ虞ル故ニ濟南事件及南京事件交渉ノ
如キ機會ヲ捉ヘ排日宣傳防止條項ニ於テ此ノ點ヲ徹底的ニ突込
禍根ヲ芟除スルノ努力必要カト存セラル
南京へ轉電セリ

206

S

11104 287

REEL No. A-0032

0335

アジア歴史資料センター

電信寫

王正廷等
六月十八日
南京

昭和三年 八一六七 略

上海 本省 六月十八日後着

亞

田中外務大臣

矢田總領事

第四〇九號

王正廷ノ談話トシテ今次張群ノ濟南行ハ何ノ爲ナリヤ諒解ニ苦シム云々ノ新聞所報ニ關シ在當地張群ハ在南京ノ王ニ對シ左ノ通電報シタル旨十八日ノ諸新聞ニ發表セリ

兄カ果シテ此ノ言ヲ爲シタルヤ否ヤハ知り得サルモ新聞ノ所報ハ讀者ヲシテ種々臆測セシメ誤解ニ來サシムル虞アリ小生ノ職責ハ外交ト絶對ニ關係ナキモ蔣介石ノ命及譚延闓等ノ依頼ニ依リ已ムヲ得ス濟南行ヲ敢行シ私行ヲ以テ折衝ノ一助タラシメ本件ノ軍事

的解決ヲ避ケ正當ナル外交的方法ニ代ヘン事ニ努力シ幸ニシテ略々此ノ目的ヲ達スルヲ得タリ右ハ歸京後蔣介石及政府當局ニ報告スルト共ニ新聞ニ披露セル次第ニ付兄ニシテ更ニ詳細ヲ知ラント欲セハ譚等ニ就キ一問アラハ明瞭トナルヘシ云々
北京、青島、濟南へ轉電セリ

S 11104 289

S 11104 288

207

秘

一何總參謀赴濟

軍事の進展

(赤 梓 紙)

イ、五月九日葛參謀處長在南京^{岡本}東領事ニ對シ本日午後三時頃ヨリ上海經由ニテ蔣介石ヨリ福田師團長宛「全權代表トシテ何總參議ヲ濟南日本司令部ニ派シ細目協定ヲ爲サシムヘク白旗ニ流ヲ立テ汽車ニテ進行スヘキニ付前線將士ニ同代表ヲ無事通過セシムル様命令サレ度」旨再三申送レルモ不通故同領事ニ於テ海軍無線ニテ右取次カレタシト申出アリ依リテ同領事ニ於テ右趣旨ノ蔣發師團長宛電報和文及英文ヲ取次タリ

ロ、右ニ對シ師團長ハ「本司令官ノ要求ヲ全部承認セラレタル意味ナリヤ返事承リ度其上ニテ貴代表派遣ノコトハ何分ノ儀回答スヘシ」ト答電セリ

外務省

208

S 11104 290

ハ、右何總參議ハ兎ニ角赴濟師團長ト會見セルモノノ如ク十六日歸寧右會見ニ付^左布ノ通語レル趣

(赤 梓 紙)

209

師團長ハ軍使ヲ遇スルノ途ヲ知ラス予ニ對シ會見ノ際椅子ヲモ與ヘス傲然タル態度ニテ予ノ發言毎ニ高壓的批評ヲ加ヘ威嚇ヲ受ケタルカ不愉快極マレリ彼ノ如キ態度ナラハ何人モ會見スルヲ欲セサルヘシ

ニ蔣ノ直接電信交渉提議

イ、五月十四日在南京^{岡本}東領事ハ「蔣介石ヨリ諸般ノ打合ヲ直接福田師團長ト話シタキニ付師團長ニ於テ同意ナラハ至急短波無線ノ波長等取極ラレ度趣ヲ以テ外交部ヲ通シ本官ノ斡旋ヲ求メ來レル」旨濟南ニ電報セリ

外務省

S 11104 291

ロ、右ニ對シ福田師團長ハ十五日頃蔣介石ニ對シ「直接交渉ニ同意スルモ無線ハ都合悪シキニ付有線ノ回復ヲ俟ツカ然ラサレハ委任狀ヲ有スル代表ヲ特派セラレタシート傳達方^{閣本}東領事ニ依頼セリ

ニ福田司令官ノ全權委員派遣督促

次イテ十六日頃師團長ハ前記十五日ノ電報ニ關シ蔣介石宛「交渉全權委員派遣ノ儀ハ如何ナリシヤ本司令ハ日本軍及日本人ニ危害ヲ加ヘタルモノニ對シ自衛ノ行動ヲ執レルモノニシテ貴總司令ハ勿論南軍全部ニ敵意ヲ表シ或ハ其北伐ヲ妨クルモノニ非ス速ニ何分ノ回答アリタシート傳達方在南京^{閣本}東領事ニ依頼セリ

(赤 梓 紙)

210

外 務 省

S

11104 292

四 軍事の解決案

五月七日福田師團長ヨリ提出セル五個條ノ要求ハ爾後ノ實力行使ニ依リ一應落着ヲ見タルモノトノ陸軍側解釋ナルカ更ニ五月十五日參謀總長ハ同師團長ニ對シ左記要旨ノ電訓ヲ爲セリ

大体左記條件ニテ速カニ軍事の解決ヲ爲スヲ要ス

一 山東鐵道沿線兩側地區ニハ治安維持上妨ケナシト認ムル迄南北兩軍ヲ駐兵セシメサルコト

ニ 押收武器ハ指示アル迄差當リ南北軍孰レニモ交付セサルヲ可トス尤モ師團長ニ於テ治安維持上妨ケナシト認ムル時期トナラハ之ヲ還付スルノ意見アルコトヲ豫メ示スモ可ナリ
三 掠奪暴行ヲ働キシ軍隊ノ長官以下幹部ノ嚴罰

(赤 梓 紙)

211

外 務 省

S

11104 293

革命軍總司令止ムヲ得サレハ之ニ相當スル權威アル代表ノ陳謝
以上ノ要求ヲ認メクル場合南軍ノ北伐ヲ妨害セサルノ趣旨ニ
基キ任務達成上支障ナキ限り南軍ノ津浦線使用ハ先ツ軍需品ノ
通過ヲ許ス程度ニ始メ爾後ハ師團長ノ裁量ニ依リ其範圍ヲ擴張
スルモ可ナリ

(赤 梓 紙)

212

外 務 省

S. S.

S

11104 294

213

(赤 梓 紙)

五、松井部長及西田領事ト張群ノ會見

五月末松井參謀本部第二部長ハ前記軍事的解決促進ノ目的ヲ以テ山
東方面ニ出張セルカ同部長ノ命ニ依リ重藤佐々木兩中佐及大倉組岡
田六月五日南京ニ於テ岡本領事ト打合セ右三名ニテ蔣介石ト面會交
渉ノ結果蔣ハ其ノ個人的代表トシテ張群ヲ濟南南方ノ黨家莊ニ派遣
松井部長ト會見セシムルコトトナリ張ハ同夜十時發重藤岡田同伴北
上シ七日午前黨家莊ニ於テ同部長及西田領事ト會見セリ
右會見ニ際シ先ツ松井部長及張ノ二人ノミニテ會談セルカ其際張ハ
非公式ニ蔣ノ立場ヲ述ヘ蔣ノ陳謝ハ同人地位ノ破滅ニ付穩便ノ方法
ニ依リタシト述ヘタルヲ以テ部長ハ日本政府ノ蔣ニ對スル好意ヲ詳
述スルト共ニ其ノ陳謝ハ日本軍ノ威信保持上絕對必要ト共ニ事件直

外 務 省

S. S.

S

11104 295

接ノ責任者トシテ當然ノ義務ニテ之^起果シテ始メテ同人ノ責^任感大ナリトシテ日本側其他内外ノ信望ヲ繫キ得ヘキ次第ヲ詳述セルカ張ハ南京政府ヨリ日本政府ニ對スル陳謝ハ兎モ角蔣ノ師團長ニ對スル陳謝ハ不可能トノ意ヲ表セルヲ以テ部長ハ然ラハ蔣ヨリ日本陸軍ヲ代表スル松井ニ陳謝スルヤト問ヘルニ張ハ黙シテ答ヘス結局張獨自ノ決心サヘモ促シ得サリシヤノ印象ヲ受ケタルカ尙部長ハ兎ニ角上海ニ赴キ蔣ニ右趣旨ヲ面談スヘキ旨約セル趣ナリ

次イテ西田領事ハ張ニ對シ事件ノ^通經^過及治安維持ノ^現現^狀ニ關シ説明シ本件ハ速カニ解決スルニ非サレハ日支双方ニ不利ナルモ萬一支那側ニ於テ之ヲ遷延スルカ如キ意圖アルニ於テハ益々解決ノ困難ヲ來スヘシト述ヘタルニ張ハ本事件ニ關シ南京政府ノ受ケ居ル報告ハ日

(赤 梓 紙)

外 務 省

S 11104 296

本側言分ト大イニ異リ直ニ後者ヲ鵜呑ニ出來サル立場ニ在リ一方本件ノ^速急^速解決ハ其ノ希望スル所ナルヲ以テ適當ノ人物ヲ濟南ニ派シ其^入實^情調^査報^告ヲ俟テ考慮シ度旨述ヘ之ニ對シテハ領事ヨリ別項^ノ通^應酬^セリ

結局本會見ニ於テ先方ハ南京政府ヨリ實狀調查^委委^任ヲ濟南ニ派遣シ又蔣ノ師團長ニ對スル陳謝ヲ避ケ南京政府對日本側代表ノ交渉ニ進ミ度意向ナルヤニ看取セラレタリ尙張群ハ日支双方ノ被害ニ付尋ネタルヲ以テ領事ヨリ同日迄ノ調査ノ大要ヲ告ケタリ

(赤 梓 紙)

外 務 省

S 11104 297

電送第 5226-5227 號

昭和 3 年 6 月 20 日 7 時 50 分 發

電信案

外務省

在支公使未定 九一三 號 轉電

(以下在支電本又)

英元ノ多クニ 巴黎 研究 局ニ 付書ニ 在 政 大

便ニ 略 送 アリ タレト 附 記 ノ 下

合 第 二 三 四 號

宛
在美代理大使
在米代理大使

發
田中大臣

件
濟南事件解決方法 初 意 向

名 込 級

主 管
亞細亞局長

主 任
亞細亞局長

昭和 三 年 六 月 三 日

電信課長

電信案

(原議用紙甲) 圓納

記 217

S 11104 299

七月十日着地 奉 命 示 九 七 号 一 節
 山東 函 致 自 己 函 呈 (其 功 務 作 業) 旨 外 務 省
 九 日 解 相 達 了 多 少 解 濟 南 上 下 之 力 務 係
 松 井 指 導 官 送 付 未 日 報 告 三 接 也 廿 日 濟 南
 日 本 軍 隊 之 遣 返 之 机 關 之 事 實 之 確 定 之 事 係
 濟 南 方 面 之 到 達 解 決 之 本 故 早 外 交 之 係 係
 後 不 必 要 ア リ ト 考 フ

外務省

S 11104 298

216



臨米へ
聯聖へ
21

電信寫

昭和3 八二三九 暗 北京 本省 六月二十日前着 亞

田中外務大臣 芳澤公使

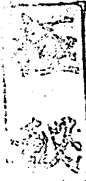
第九一三號

六月十九日英國公使來訪ノ際同公使カ王正廷ノ代表郭炳文ト談話
中郭ハ南京ノ現ニ有スル唯一ノ外交問題ハ要スルニ濟南事件ニシ
テ爾餘ノ問題ハ之ニ比セハ小問題ニ過キサルカ故ニ南京政府トシ
テハ之ヲ國際聯盟ニ提出スルカ將又仲裁裁判ニ付スルカノ説有力
ナリト述ヘタルニ對シ同公使ハ日支双方カ付託ヲ同意スルニ非サ
レハ仲裁説ハ成立セサルヘシト述ヘタル趣本使ノ含ミ迄極秘トシ
テ内話セリ

上海、南京ニ轉電ナリ

218

S 11104 300



電信寫

電報號碼
三三三
三三三

11102

昭和3 八二八九 暗

北京 本省

六月二十日後着

亞

田中外務大臣

芳澤公使

第九一九號ノ一(機密)

往電第八三二號ニ關シ

六月十六日東京發「ルーター」ハ最モ信シ得ヘキ筋ヨリノ聞込トシテ日本政府ハ濟南事件ニ關シ近ク正式ニ交渉ヲ開始シ死亡者及掠奪ニ對スル賠償、陳謝、發行責任者ノ處罰及將來ノ保障等ヲ要求スヘシト傳ヘタル處右要求ハ尤モノ次第ナルモノ之ニ付考慮ヲ必要トスルハ

一福田師團長ハ五月七日支那側ニ對シ五箇條ノ要求ヲ爲シ支那側

ニ於テ之ニ應セサリシ爲砲撃ヲ加ヘタルモノナルカ故ニ支那側ニ於テ右要求事項ハ右砲撃ニ依リ消滅シタルモノナリトノ見解ヲ有シ居ルハ(在濟南西田總領事代理發閣下宛電報第一九九號)當然アリ得ヘキ事ナルカ在濟南西田總領事代理發閣下宛電報第三〇八號ニ依レハ帝國政府モ亦右要求ハ實力ニ依リ解決濟ノモノト解釋シ居ラルルハ誠ニ同感ニテ事實右五箇條ノ要求中第二項武裝解除第三項軍隊ノ一定地域外立退第四項排日宣傳中止第五項濟南及鐵道沿線軍隊撤退等ハ事實強力ニ依リテ實行セラレ第一項ノ責任者ノ處罰ハ既ニ砲撃ニ依リテ解決シタルモノトモ見ルヲ得ヘク又在濟南總領事代理發電第四三號所謂軍事的解決要項中(一)山東沿線地域内軍隊駐屯禁止(二)武器ノ抑留(三)責任者ノ處罰及(四)陳謝モ亦或ル程度迄ハ事實我方ノ實力ニ依リテ解決シ或ハ砲撃ニ依リテ主張ノ根據ヲ失ヒタルモノトモ見得ヘシ(續ク)

S 11104 302

S 11104 301

昭和3 八二九〇 暗

北京 本省

六月二十日後着

亞

田中外務大臣

芳澤公使

第九一九號ノ二(極秘)

尤モ右端田師團長ノ要求ハ支那軍隊カ商埠地ノ四圍ニ壘壕ヲ築キ
 又附近高地ニ砲列ヲ敷キ日本居留民ハ危險ノ地位ニ置カレタル爲
 ニ出テタルモノナリト稱セラルルモ我軍隊カ支那軍ノ攻撃ニ先タ
 チ先ツ我ヨリ發砲シタルハ如何ニ考フルモ居留民保護ノ範圍ヲ超
 越シタルモノト看做ササルヲ得ス唯我軍事當局ハ軍略上ノ見地ヨ
 リ敵ノ攻撃ニ先タチ進撃シタルモノナリト解釋シ居ルモノノ如キ
 カ右軍略上ノ理由ヲ以テハ假令第三國ヲ首肯セシムル事アリトス

電信寫

ルモ支那側ヲ納得セシムル事困難ナルヘク右事件善後ノ狀況及其
 ノ要求條項ノ内容等ヨリ判スレハ七日ノ要求及八日ノ砲撃ハ寧ロ
 三日ノ事件ノ報復ニ基キタルモノト看做シ得ヘキ節アリ若シ果シ
 テ然リトセハ責任者ノ處罰陳謝及賠償等ノ要求ハ報復ニ出テサル
 前ニ於テハ當然提出シ得ヘキモ我方ニ於テ報復行動ヲ執リタル後
 ニ於テハ既ニ要求ノ一部ハ滿タサレタルモノナルカ故ニ唯今之ヲ
 要求スル根據モ強カラズ茲ニ八日以後ノ砲撃ニ依リテ支那側ノ損
 害ハ遙ニ我方ニ凌駕スル事實ニ顯ミレハ損害賠償ヲ承認セシムル
 事ハ困難ナルヘシ惟フニ八日以來ノ砲撃ヲ以テ三日ノ事件ノ報復
 ト看做スヘキヤ否ヤハ些カ機微ナル問題ニシテ外部ニ對シテハ無
 論否定的ニ主張スルヲ可トスヘク本使モ現ニ斯ク主張シツツアル
 モ愈濟南事件解決交渉ニ當リ之ヲ主張シテ果シテ勝目アリヤト云

フニ遺憾ナラ無シト云ハサルヲ得ス(續ク)

S 11104 304

S 11104 303

電信寫

昭利三 八二九一 暗

北京 本省

六月廿日後着

亞

田中外務大臣

芳澤公使

第九一九號ノ三 (極秘)

蓋シ若シ報復ニ非スシテ支那側カ附近高地ニ砲列ヲ敷キ其ノ他攻撃的準備ヲ爲シタルニ依リ我方ノ自衛上已ムヲ得ス砲撃手段ニ出テタルモノトセハ敵ノ積極行動ニ對抗セムカ爲ニ全然防禦的必要ニ出テタル受動的行動ナラサルヘカラス然ルニ敵ノ積極行動ニ對シテ急遽對抗措置ニ出テムカ爲三日ノ事件ノ責任者處罰及其ノ他ノ要求ヲ爲スカ如キハ聊カ解釋ニ苦シマサルヲ得ス若シ報復ニ非ストノ諒ヲ貫徹セムトセハ勢ヒ右ノ如キ多少無理ナル論ヲ爲サ

サハヘカテ然ルニ實際ハ三日ノ事件ニ於ケル支那側之背信舉動ノ舉ハ天人ノ共ニ怒ル處我軍隊ノ激怒セルハ固ヨリ當然ノ事ナルカ故ニ責任者處罰其ノ他ノ註文モ出テタル諒ニテ感情ヨリ云ハハ無理ノ無キ處ナリ斯ク觀シ來レハ今後交渉ヲ開始スル場合右諸種ノ要求ヲ爲スモ天下ヲ首肯セシメ將又相手タル支那側ヲ承服セシムル事先ツ不可能ナルヘキハ好ク諒解シ得ラルヘシ
ニ若シ日本側ニ於テ八日以後ノ如キ砲撃ヲ加フル意向有リシトセハ三日事件ノ直後ニ實行シタル方效果ヲ齎シタルモノナルヘク支那ノ現状ニ於テハ事件直後討伐スル事ハ比較的容易ナルモ事件後時ヲ經テ陳謝、處罰、賠償等ヲ要求スルモ事實上到底満足ヲ得ル事困難ナルヘキハ南京事件ノ事例ニ (徵シ) 明白ナルカ又本年廣東露國副領事慘殺事件ニ關シ露國カ今ニ至ル迄支那側ニ對シ何等ノ要求ヲ爲ササルハ參考ト爲スニ足ルヘシ (續ク)

S 11104 306

S 11104 305

軍事要求の三項 閣議に提出

白川陸相より申出づ

外交交渉に對する軍事要求は、
一、東京政府の正式請願
二、恩赦されたる我居留民十四名
の遺族に對し甲府金を交付
と共に、掠奪されたる百二十九
戸に對し損害賠償をなすべき事
一、將來山東に於ける我居留民
の生命財産に對しては絕對に危
害を加へずると共に、確實に保
護を加ふることを要すべき事
の三項であつて、十九日の定例閣
議に於て白川陸相より此旨申出
る處があつた、尙右三項以外の第二
次の大なる請求案については外
交交渉の進展に伴ひ軍部の意見
の生命財産に對しては絕對に危
害を加へずると共に、確實に保
護を加ふることを要すべき事

中央新聞 昭和 年 月 日

S 11104 307

222